

北京日本学研究中心

通 讯

《第八号》

责任编辑：漆红 山下纪久枝 P.C.100081 Tel:890351-584 1991.1.1.

[中心动态]

◎91年度硕士生招生调研·宣传活动

日本学研究中心自85年创立以来，吸收了来自全国各地的优秀学生，每年的报名·录取比都居全国同专业首位。但是，由于我国地域辽阔，加上草创期的中心把工作重点主要放在内部建设上，使得国内许多地方尚不了解中心；而外埠的招生工作及生源情况的情报网络也尚未健全。这些都使得报考中心的人员在范围和层次上受到影响。

基于上述种种，为搞好91年度招生工作，11月下旬，李书成副主任、户川主任教授及有关人员兵分三路，赴东北、华东、西南三区，开展了日本学研究中心创立以来的首次招生调研·宣传活动。

在所到的11市24所大学里，通过讲演会和座谈会等多种形式的活动，使更多的人对中心有了了解。有人说，过去以为中心和北京外国语学院日语系是一回事；有的说，一直觉得中心高不可攀，不敢报考。也有的人听完宣传后表示要改变初衷，报考中心。更为可喜的是，不少学校的二、三年级学生也踊跃参加了有关会议，并对中心表示了很大的兴趣。有些人明确表示，毕业时一定报考中心。

可以说，本次活动是成功的。据12月5日截止的报名统计，本次报名者共108名，从报名·录取比看，接近第一届(85年)的历史最高水平。参加调研·宣传的人说，各校的积极支持气氛令人鼓舞，若再早一点动手，人数会更多，希望今后继续这项活动。

◎客座研究员招聘细则（摘要）

从1990年开始，北京日本学研究中心增设客座研究员（国内访问学者）制度，招聘细则及客座研究员职责如下：

招聘细则：

对象：已获得硕士学位的本研究中心毕业生。

程序：首先由申请者本人拟定研究课题计划，填写“申请书”，然后经由本单位领导同意后，邮寄北京日本学研究中心办公室。研究中心将根据申请者的研究计划统盘考虑审核，确定人选，发出招聘通知书。

待遇：研究中心将为客座研究员提供一定研究条件、研究经费，并负担往返路费。

期限：一年（客座研究员可于3月1日或9月1日到职，招聘期限按累积计算）

客座研究员职责：

- 一、根据本人的研究计划，进行专题研究，并在期满时提交研究成果（论文或著作）；
- 二、协助指导教师作好研究生硕士论文的辅导工作；
- 三、完成中心安排的其他工作。

◎89级硕士研究生赴日研究指导教师一览

89级(第5期)硕士研究生赴日研究期间的指导教师日前已经确定,时间是1991年2月13日至1991年3月12日,详情参见本期日文版[センタ-动向]。

公开讲座·杂感

※第7次「大正教养主义者(和辻哲郎、阿部次郎等)的“日本回归”

——日本知识分子的“转向”形态—— 饭田泰三先生

听课的时候,经常听到某人“转向”了,但一直都不知道“转向”究竟是怎么一回事。听完老师精采的讲演以后,对日本知识分子的“转向”有了一个系统的认识,并且为先生渊博的学问所折服。

(文化一年级 李志勇)

※第8次「作为语言文化的指标的日语及中文中的亲族称谓词汇」 上野惠司先生

上野先生的讲座从文化的角度对中国的亲族称谓进行了独特的分析。这种从外国人的角度进行的分析给中国听众以新鲜的感觉。同时,上野先生还希望中国人从中国的角度研究一下日本的亲族称谓。

(语言二年级 李树民)

※第9次「关于初级句型指导」 山下纪久枝先生

听了山下先生的讲座,深受触动。今后要掌握日语教师所必须的知识和本领,做一个真正合格的日语教师,选择适于中国学生的教授法和较新的教材,站在新的起点上出发。

(进修班 黄慧美)

第10次「期待形成与经济政策」 矢野顺治先生

矢野先生结合了生活中最常见的经济现象,深入浅出地讲解了宏观经济学的理论体系,使我们对宏观经济学有了一个初步的理解,这确实是一件不容易的事。同时,讲解附上经济学家的照片,生动形象。

(社会二年级 陆伟雄)

第11次「中国的近代和日本的近代——从思想史的视点看」 村田雄二郎先生

村田先生以丰富的资料,翔实地考证了康有为的《日本变政考》故宫进呈本的版本、执笔和进呈的过程,释明了几处疑点,对再认识康有为的变法思想和戊戌变法很有启发。作为中国人也对村田先生流畅地诵读史料感到钦佩。

(文化一年级 徐蕾)

第12次「老人问题」 山田等先生

以老人问题结束本学期的讲座可谓匠心独运。山田先生以幽默的语言指出,在近代社会中,老人被排除在组织、城市和现代家族之外,与青壮年相比处于劣势。这一点似乎与中国有很大不同。

(客座研究员 李国庆)

[通知] 本通讯91年2月号停刊一次,敬请原谅。

感谢各位一年来的关心和支持,谨祝大家春节愉快,在新的一年里取得更大的进步!!

センター動向



☆ 91年度大学院生募集PR活動

91年度の募集活動の一環として、11月末ごろ、戸川主任教授、李副主任をはじめとして、センターでは東北、華東、西南の三区において、かつてない募集大PRを行った。11都市の21の大学において、講演をし、教職員・大学生との座談会を開いた。これによって、これまでセンターについてあまり知らなかった人や、センターを“北京外語・日本語系”と区別していなかった人々も認識を新たにした。中には、すでに他の大学院をめざして準備していたにもかかわらず、今回の講演を聞いて、センター受験を希望する者もあったとのことである。申込締切は12月5日であったが、申込者数は108名であった。

以上のように、今回のPR活動は、やや出足が遅れぎみであったものの、大成功だったと言えよう。（詳細は中国語版参照のこと。） (漆紅)

☆ 客員研究員募集要項 (概要)

修士号を有する本センター卒業生は、下記の要領で1年間本センターにおいて研究することができる。①. 研究計画書、申請書を、勤務先の同意を得たうえで、センター事務所に提出すること。②. 採用決定後、センターは往復旅費、研究に必要な経費、施設を提供する。③. 研究員は任期終了時に、学術論文あるいは著作を提出すること。また院生のチューター、およびセンターの仕事をする事。（中国語版参照） (漆紅)

☆ 修士課程89級 (第5期) 生・訪日研究受入先

以下のように内定した。訪日期間は1991年2月13日から8月12日までの6か月間。

氏名	大学・学部	指導教官	氏名	大学・学部	指導教官
〔言語コース〕			〔社会コース〕		
李樹民	同学院大・文学	岡崎正継	邢 羿	お茶の水女子大	江原由美子
郭徳玉	成城大・文芸	山田俊雄	陸偉雄	慶応大・経済	島田晴雄
〔文学コース〕			〔文化コース〕		
張龍輝	東京女子大・文理	秋山 虔	徐向東	立教大・社会	笠原清志
王光旭	成城大・文芸	東郷克美	丁宏偉	名古屋大・経済	荒山裕行
応 傑	学芸大・文学	大久保典夫	李曉東	学芸大・教育	中村 義
黄麗芳	学芸大・文学	大久保典夫	王俊利	国立教育研究所	佐藤秀夫
鄭曲壽	松学舎大・文学	林 武志	劉林利	東京大・社研	平石直昭

公開講座・雑感

♡第7回「大正教養主義者（和辻哲郎、阿部次郎ら）の「日本回帰」

—— 日本知識人の「転向」形態 —— 飯田泰三先生

授業中、しばしば「転向」という言葉を聞いたが、一体全体どういうことなのか、よく分からなかった。今回の講座をうかがって、日本知識人の「転向」について系統的な理解ができた。また、飯田先生の研究のはば広さを改めて感じた。

（文化1年・李志勇、山下訳）

♡第8回「言語文化の指標として見た日本語と中国語の親族語彙」 上野恵司先生

上野先生は本講座で、文化という角度から中国の親族語彙について独特な分析をなされた。このような外からの視点による分析は、中国の聴衆に新鮮な感じを与えた。同時に、上野先生は、我々中国人の角度から日本の親族語彙を研究するよう希望なされた。

（言語2年・李樹民、山下訳）

♡第9回「初級の文型指導について」 山下紀久枝先生

山下先生の講座を聞いて、深く反省させられた。これからは日本語教師にとって必要な知識と能力を身に付けた、正真正銘の日本語教師になりたい。中国人学習者にふさわしい教授法を選び、比較的新しい教材を使い、新しいスタートラインから出発したいという気持ちでいっぱいだ。

（研修コース・黄慧美）

♡第10回「期待形成と経済政策」 矢野順治先生

矢野先生は、生活の中でよく見られる経済現象と結びつけて、マクロ経済学の理論体系を非常にわかりやすく解説して下さった。この講座によって、我々学生はマクロ経済学についての初歩的な知識を身につけることができた。また、講演資料に添付された経済学者の顔写真も生き生きとしていてよかった。

（社会2年・陸偉雄、山下訳）

♡第11回「中国の近代と日本の近代 —— 思想史の視点から」 村田雄二郎先生

豊富な資料によって、康有為の『日本変政考』を、故宮進呈本を版本として、その執筆、進呈の過程を考証・解明なさり、康有為の変法思想及び戊戌変法についての再認識をさせた。また、さすがに流暢な中国資料の読みぶりにも、中国人として大いに感心させられた。

（文化1年・徐蕾）

♡第12回「老いのとらえ方」 山田等先生

老人問題をもって本学期の公開講座を終わりとするのは、うまく構成されたものだと思う。山田先生はユーモアあふれる言葉で、近代社会において、「老い」は組織、都市近代家族から排除され、本質的には成人より劣位に置かれると指摘なされた。この点に関しては、どうも中国とは違っているように感じる。

（客員研究員・李国慶）

〔お知らせ〕 通訳2月号はお休みさせていただきます。皆様、どうぞよいお年を！！